

岩見沢市の現状と問題点

- 路線バスの利用者が大きく減少し、路線の廃止や大幅な減便などが現実的な問題となっている。
- 公共交通空白地域や超高齢社会における住民の足の確保なども問題となっている。

現状や問題点を踏まえ、将来を見据えた公共交通のあり方を検討し、具体的な施策を推進していくことが必要。

問題点の解決に向けての取組

平成26年度

【現状の分析・市民ニーズの把握】

- 地域別の人口分布、年齢構成等の分析
- 路線バスの運行状況の把握
- バス利用実態調査～バス停別の乗降客数や利用目的など、バス利用の詳細を把握
- バス交通等に関するアンケート～買い物や通院、通勤などにおける移動手段や時間帯、公共交通に対する要望などについてアンケートを実施(10,000世帯)

現状の分析・市民ニーズの把握を踏まえ、岩見沢市の課題を洗い出し、課題解決に向けた公共交通サービスの改善の方向性について検討。

公共交通サービスの改善の方向性について定めた「**岩見沢市生活交通ビジョン**」を策定。

「岩見沢市生活交通ビジョン」を踏まえ、改善に向けた具体的な計画を検討し、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づく「**地域公共交通網形成計画**」を策定。

「地域公共交通網形成計画」に定める具体的な施策を実施し、公共交通サービスの改善を進めていく。

平成27年度以降

岩見沢市地域公共交通活性化協議会

課題解決に向けた公共交通サービスの改善の方向性や、「岩見沢市生活交通ビジョン」を踏まえた改善に向けての具体的な計画の検討などのため、利用者代表、交通事業者、学識経験者、行政などによる協議の場を設置。

岩見沢市の公共交通の現状や課題に対する共通認識を図りながら、多様な視点からのご意見を頂戴し、将来を見据えた公共交通の構築に向けた協議を進めたい。

交通政策基本法(平成25年12月4日公布・施行)の具体化

日常生活等に必要不可欠な
交通手段の確保等

まちづくりの観点からの
交通施策の促進

関係者相互間の連携と
協働の促進

等

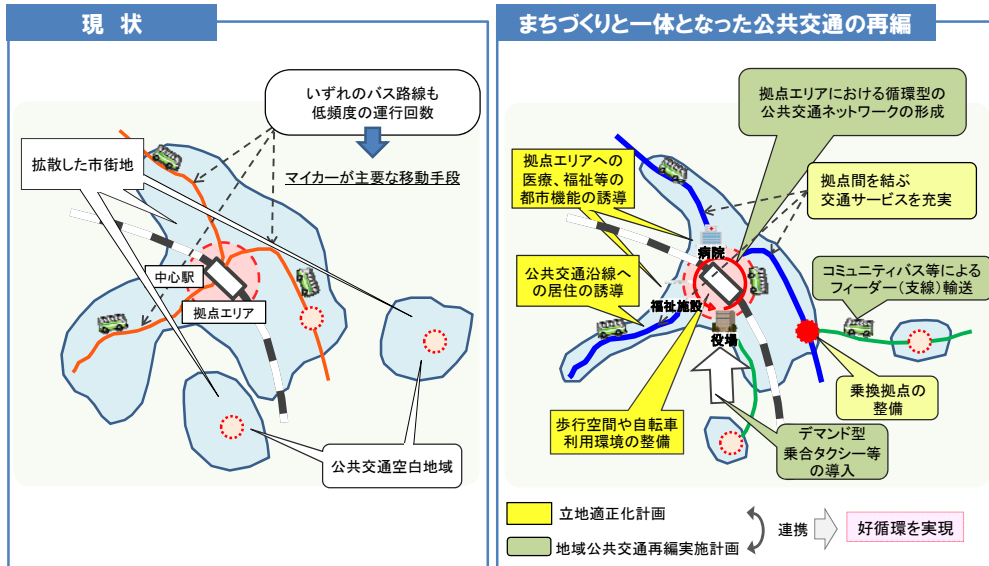
目標

本格的な人口減少社会における地域社会の活力の維持・向上

ポイント

- ① 地方公共団体が中心となり、
- ② まちづくりと連携し、
- ③ 面的な公共交通ネットワークを再構築

コンパクトなまちづくりと一体となった公共交通の再編のイメージ



※富山市、熊本市、豊岡市、三条市等の取組を参考として作成

改正地域公共交通活性化再生法の基本スキーム

基本方針

国が策定
まちづくりとの連携に配慮

地域公共交通網形成計画

事業者と協議の上、
地方公共団体が
協議会を開催し策定

- コンパクトシティの実現に向けたまちづくりとの連携
- 地域全体を見渡した面的な公共交通ネットワークの再構築

地域公共交通特定事業

地域公共交通再編事業

面的な公共交通ネットワークを再構築するため、事業者等が地方公共団体の支援を受けつつ実施

軌道運送
高度化事業
(LRTの整備)

鉄道事業
再構築事業
(上下分離)

地域公共交通再編実施計画

地方公共団体が事業者等の同意の下に策定

実施計画

実施計画

国土交通大臣が認定し、計画の実現を後押し